

単独内側半月板前・中節部損傷の検討

○天野 大 (あまの ひろし) (MD)¹⁾, 田中 美成 (MD)¹⁾, 北 圭介 (MD)¹⁾, 内田 良平 (MD)²⁾,
辻井 聡 (MD)³⁾, 塩崎 嘉樹 (MD)²⁾, 堀部 秀二 (MD)⁴⁾

¹⁾ 大阪労災病院 スポーツ整形外科

²⁾ 正風病院 整形外科

³⁾ 大阪大学 整形外科

⁴⁾ 大阪府立大学 総合リハビリテーション学類

【目的】

単独内側半月板 (以下 MM) 損傷は中後節部に生じる事が多く, 前中節部の発生は稀である. そこで単独 MM 前中節部損傷の特徴を明らかにするため当院の症例を検討した.

【対象と方法】

1998年1月から2015年9月に手術した単独 MM 損傷 294 例 (平均 29.7 歳) を対象とし, 患者背景, 受傷機転, 関節鏡所見を評価した.

【結果】

前中節部損傷は 17 例 (5.8%) に認め, 30 歳未満では 110 例中 16 例 (14.5%) に認め 30 歳以上に比べ有意に多かった ($p < 0.05$). 1 例を除きスポーツによる受傷 (サッカー 16 例, テニス 1 例) であった. 初診時ロッキングを呈していたのは 12 例であった. 全例 red/red zone の縦断裂で, 14 例に inside-out 法で縫合し再断裂例はなかった. 3 例は部分切除した.

【考察】

比較的若年の単独 MM 損傷では中高年に比べ前中節部損傷が多くみられ, 縫合術による成績は良好であった. 受傷後長期経過例では変性が強く適切な時期に手術を行うことが重要と考えられた.